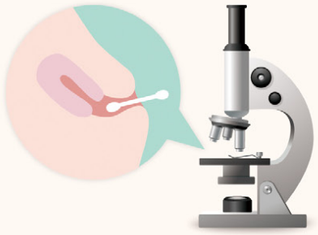
KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／一般社団法人 京都府医師会
これだけは知っておきたい
健康の知識
VOL.95

子宮頸がんに関わる検診とは

子宮頸部は、❶診察で直接視認し、❷細胞を採取することが可能です。そのため、検診の有効性が科学的に証明されている、数少ないがんの一つです。検診ではがんを早期発見すること以上に 、前述の前がん病変の段階を捉え、発がんを予防することが非常に大きな目的になっています。

1 視診・触診・内診

医師が子宮頸部の状態を目で確認し、子宮全体と卵巣、卵管などを触って診断します。



2 細胞診

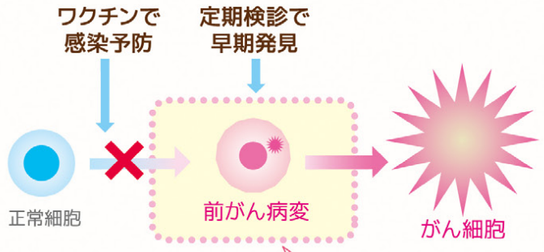
子宮頸部の表面（粘膜）からブラシなどで軽くこすり取った細胞を顕微鏡で調べます。

がん検診の定期受診と早期発見・早期治療

現在我が国のがん検診の受診率は決して満足のいくものではなく、京都府も例外ではありません。京都から子宮頸がんで死亡する人が少しでも減るよう、対象年齢に達した方は定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。そしてもし精密検査が必要と判定されたら、必ず精密検査を受けるようにして下さい。

精密検査の対象の多くは、前がん病変の疑いです。前がん病変の段階であれば、適切な治療によりほとんどが治癒可能で、妊娠する能力を保持した形の治療も十分検討できます。がんとなった状態では、前述のように非常に大きな治療を要することがあるため、前がん病変の段階で治療を適切に行うことが、非常に大事です。

ワクチンと検診による子宮頸がんの予防



子宮頸がんは、予防可能ながんです。検診を活用し、早期発見、早期治療に努めましょう。

子宮頸がん検診を受けるにはどうすればよいの？

① お住まいの市町村の検診（20歳以上）
② 職場の検診　　③ 自費で受ける検診

市町村の検診の受け方

市町村の広報紙やホームページで検診の情報を探す
市町村からの検診案内を見て、検診を受けられる産婦人科や検診センターを探す
↓
検診を予約
↓
婦人科・検診センター等で受診

検診日は月経や月経直後は避けましょう

市町村子宮頸がん検診実施情報

お住まいの市町村によって、実施時期や助成内容等が異なります。下記よりご確認ください。

○○市 子宮がん検診　検索

一般社団法人 京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東栂尾町6 TEL:075-354-6101（代表）
<ホームページ>http://www.kyoto.med.or.jp <E-mail> kma26@kyoto.med.or.jp
発行 SPRING 2021

子宮頸がん

知っていますか？
「子宮頸がん」のこと。

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／一般社団法人 京都府医師会
これだけは知っておきたい
健康の知識
VOL.95

子宮頸がんは検診で見つけやすいがんです。

子宮頸がんは「予防できるがん」です。

20歳になったら
定期的な子宮頸がん検診を受けましょう。

子宮頸がんの疫学

子宮は大きく頸部（入口）と体部（奥側）に分けられ、発生するがんのタイプや治療法も大きく異なります。子宮頸がんは、子宮の頸部（入口の部分）に発生するがんです。婦人科の悪性腫瘍の中でも特に**妊娠が可能な若い年代に多いことが特徴です**（図1）。

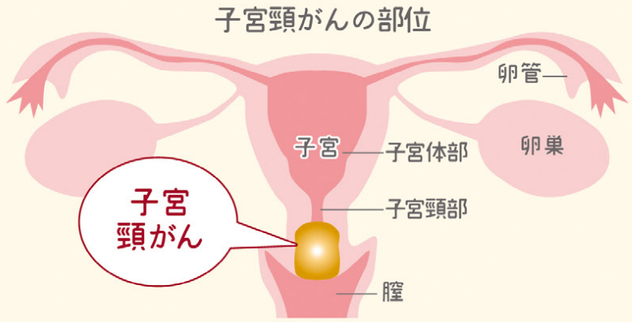
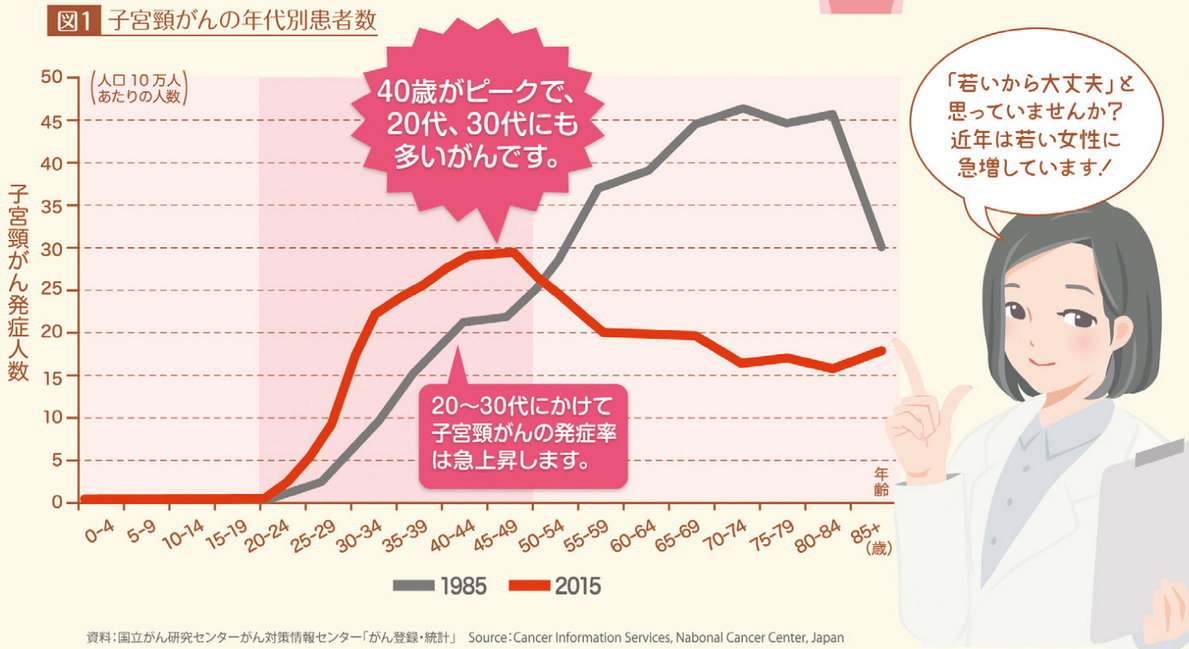


図1 子宮頸がんの年代別患者数



資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」 Source：Cancer Information Services, Nabonal Cancer Center, Japan

子宮頸がんの予後※

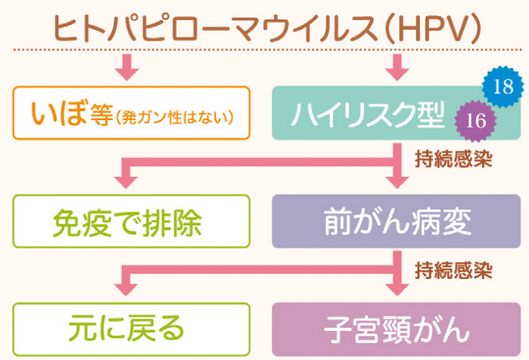
※治療した後、病状がどのような経過をたどるのかの予測・見通しのこと

子宮頸がんの治療の主体は一般に、早期の場合は手術療法、進行期の場合は手術療法と術後同時放射線化学療法、または同時放射線化学療法、さらに進行している場合は化学療法が主体になります。早期の中でも限られた症例では、妊孕能（妊娠する能力）を温存する手術も考慮されますが、基本的には妊孕能を喪失する可能性は極めて高いです。また、癌が子宮頸部に留まる場合の予後は比較的良好ですが、残念ながら死亡に至ることもあります。癌がリンパ節に転移したり、子宮頸部の周りに拡がっていたりする場合は、死亡率は高くなり、予後が良いとは言えません。

早期発見することにより死亡率を下げ、予後も良くなります。

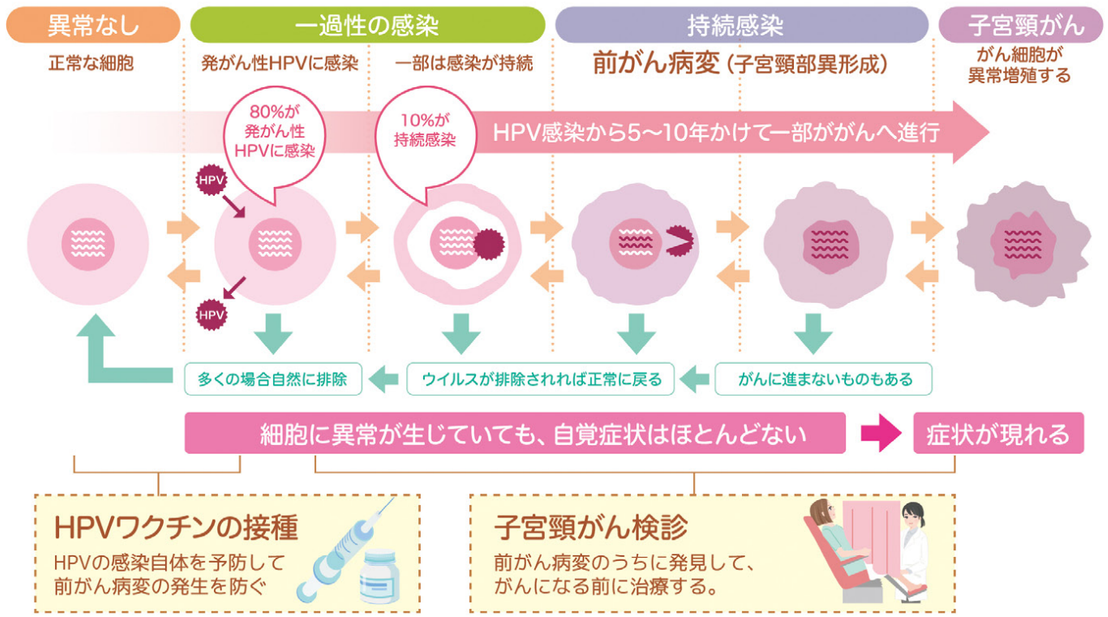
発がんの予防とリスク軽減

子宮頸がんが起きる原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染がほぼ全てと言い切っても過言ではありません。HPVは100種類以上あり、多くは子宮頸がんの発がんに関係なく、関連するタイプは13種類程度とされています。中でも特にリスクが高いとされているものは「16型」、「18型」です。子宮頸がんはHPV関連のがんなので、その感染予防で発がんが予防できます。実際に2000年以降世界中でワクチン接種が行われており、ワクチン接種後の子宮頸がん患者は明らかに減少傾向です。ワクチンの改良は年々進んでおり、当初は16、18型のみに対する効果があるものでしたが、最新のものは9価ワクチンと呼ばれるもので、より多くの型に対応できます。日本でも一時期は7割を超える接種率がありましたが、副事象への懸念から現在の接種率は1%以下になっています。近い将来、日本でのワクチン接種が普遍的に行われることが強く望まれます。子宮頸がんは、正常組織から突然がんに変化するのではなく、子宮頸部異形成と呼ばれる前がん病変を経てがんへと進展します（図2）。前がん病変からがんへの進展は年単位と比較的緩徐で、前がん病変の段階で見つけて治療することが十分可能です。**前がん病変特有の自覚症状は基本的になく、検診以外では見つかりません。そのため、検診が非常に大事になります。**



HPVワクチン	予防できるHPV型
◆2価ワクチン	16 18
◆4価ワクチン	16 18 6 11
◆9価ワクチン（より多くの型に対応）	16 18 6 11 31 33 45 52 58

図2 発がん性HPV感染とがん細胞への変化



自覚症状のない前がん病変を見つけることが検診の目的です。